



報道各社御中←環境省広報室

アホウドリ新繁殖地形成事業による鴛島での人工飼育個体の産卵について
(お知らせ)

<(公財)山階鳥類研究所 同時発表>

小笠原群島鴛島(むこじま)におけるアホウドリの新繁殖地形成事業(伊豆諸島鳥島のアホウドリのヒナを小笠原諸島鴛島に移送し、新しい繁殖地を形成する事業(2008(平成20)年から実施)において、2008年に鴛島を巣立った個体と野生個体のつがいの間で、1卵の産卵が確認されましたのでお知らせします。当事業で鴛島での産卵が確認されたのは初めてです。

※この事業は、(公財)山階鳥類研究所が、環境省、東京都、米国魚類野生生物局、三井物産環境基金、公益信託サントリーー世界愛鳥基金等の支援を得て実施しているものです。

I 産卵したつがい

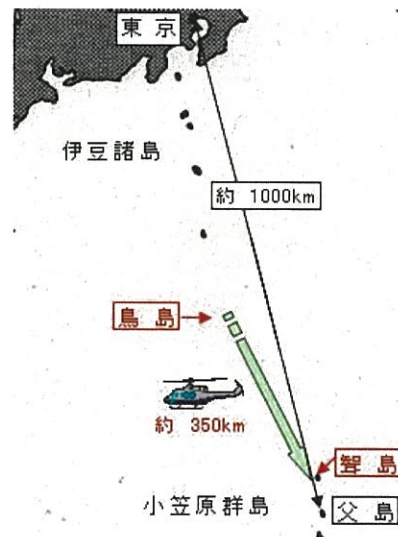
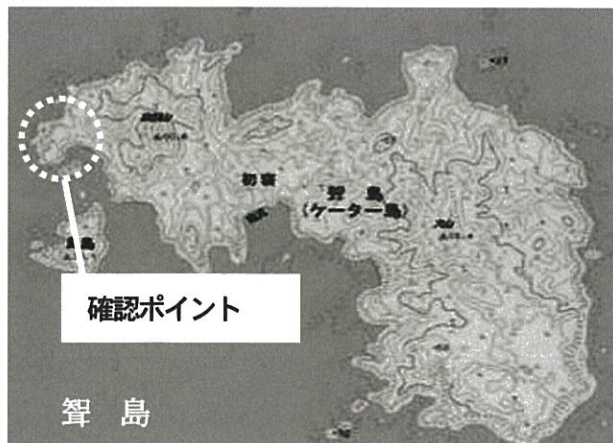
2008(平成20)年に巣立った個体 Y01(4歳、雄)と野生個体(雌)

II 産卵場所

鴛島の北西部でヒナを飼育し巣立ちをした場所。Y01は前の繁殖期である2012(平成24)年2月にも同所に定着して、野生個体(足環がついていない)と互いに求愛をしていたことが確認されています。

III 確認の状況

NHKと(公財)山階鳥類研究所が共同で設置している監視カメラによって動画を撮影。後日現地から録画データを回収し精査したところ、11月14日の映像でY01の巣内に1卵があるのが確認されました。



平成24年12月5日(水)
環境省自然環境局野生生物課
(代表: 03-3581-3351)
(直通: 03-5521-8283)
課長: 中島 慶二 (内線: 6460)
課長補佐: 山本 麻衣 (内線: 6475)
専門官: 加藤 麻理子 (内線: 6671)
専門官: 浪花 伸和 (内線: 6469)

<Y01 (手前) の足元に卵が見える。すぐ後ろにいるのはメス。他は誘引のためのデコイ。>





<Y01 の足環が読み取れる。右は卵。 >



※いずれの写真も提供：NHK

アホウドリの概要

ミズナギドリ目アホウドリ科

アホウドリ(学名 *Diomedea albatrus*)

絶滅危惧Ⅱ類

(環境省レッドリスト 2012)

1. 分布及び個体数

- ・ 繁殖地は伊豆諸島鳥島と尖閣諸島のみ
- ・ 1949年の調査で絶滅宣言が出されたが、1951年に約10羽が鳥島で再発見された。
- ・ 2012年の繁殖期において、鳥島での総個体数は、3,000羽程度と推定されている(尖閣諸島では約300羽と推定)。
→総個体数 3,300羽程度

2. 形態及び生物学的特性

- ・ 成鳥は胴部と翼の基部が白色、頭部は淡黄色。翼の先端部と尾の先端が黒褐色。
- ・ 成熟個体で全長が84~94cm。
- ・ 繁殖活動は10月~翌年5月。
- ・ 7歳頃から繁殖に参加し、巣立った場所に戻ってきて繁殖を行う傾向が強い

3. 減少要因

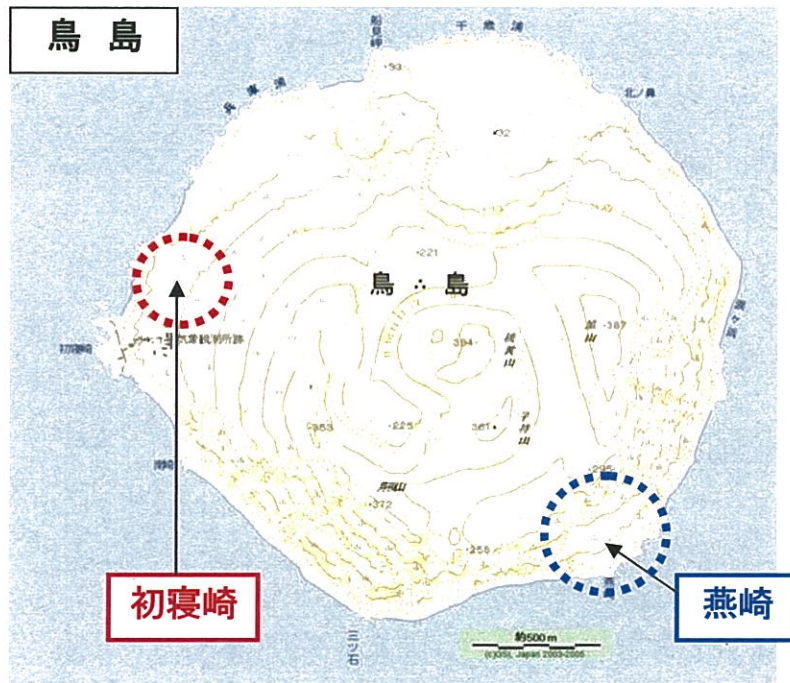
- ・ 1890~1900年代に羽毛採取のため大量に捕獲され、1949年の調査では絶滅した可能性があると報告された

4. 保護の対策

- ・ 昭和56年から繁殖成功率を高めるため、植栽や土留工などによる繁殖地の環境改善事業を開始
- ・ 平成5年、種の保存法に基づく「国内希少野生動植物種」に指定
- ・ 同年、保護増殖事業計画を策定し、繁殖地の環境整備事業(燕崎)や、新たな繁殖地の形成事業(初寝崎)を行った
- ・ 平成13年度より米国と共同で人工衛星による行動追跡を行っている
- ・ 鳥島は活火山であり、噴火による繁殖地の消滅が懸念されるため、平成19年度より小笠原群島聳島で新繁殖地形成事業を開始平成20~24年に計5回、伊豆諸島鳥島からヒナをヘリコプターで聳島へ70羽移送。山階鳥類研究所の職員が聳島に滞在し、ヒナの人工給餌を実施し、で計69羽のヒナが巣立った
2011年2月には初めて巣立ったヒナの聳島への帰還が確認された



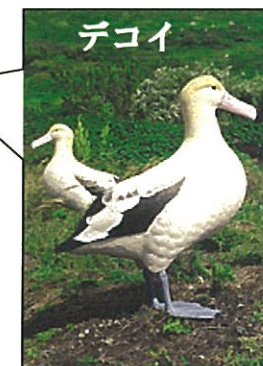
アホウドリ保護増殖事業の概要(1)



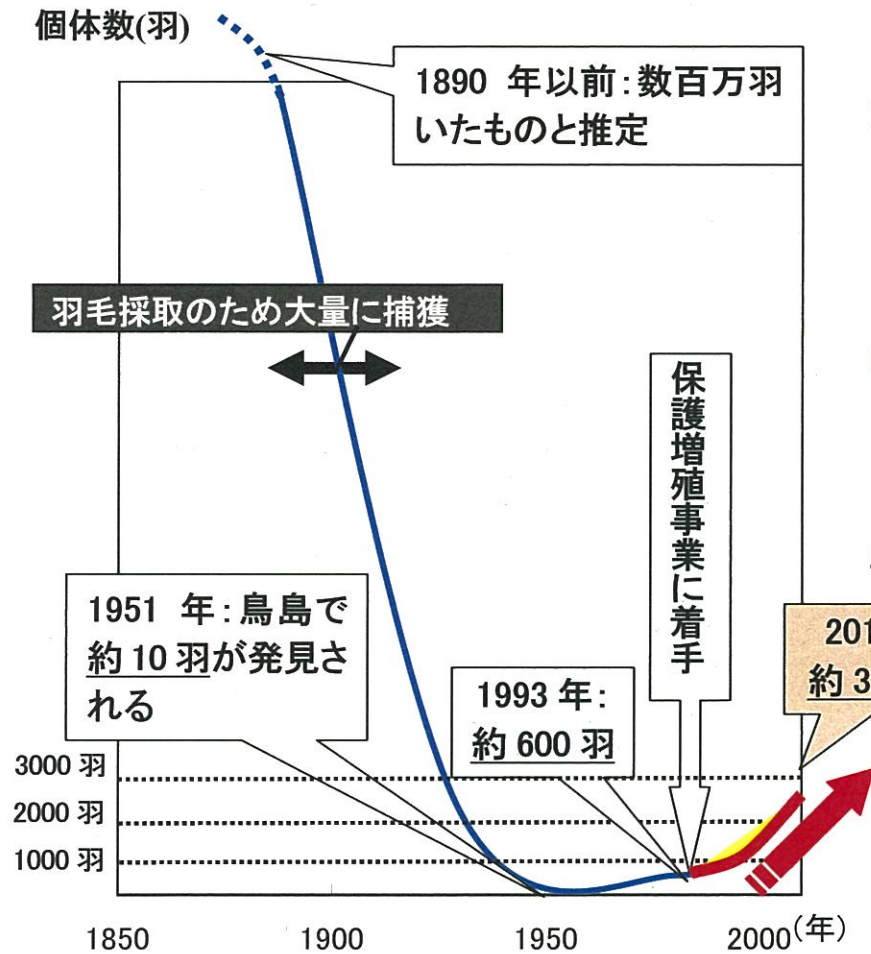
燕崎:アホウドリが1951年に再発見された場所。土砂が流入し、立地が不安定で繁殖成功率が低かったため、植栽や砂防工事を実施し、繁殖地の環境整備を実施。2011年には271つがいが繁殖。



初寝崎:比較的傾斜が緩やかな初寝崎にデコイ(実物大の模型)と鳴き声の再生装置を設置して繁殖個体を誘導。1993年より事業を開始し、2005年に4つがいが繁殖。新たな繁殖地の形成に成功した。2011年には56つがいが繁殖。



アホウドリ保護増殖事業の概要(2)



アホウドリの個体数の推移

平成5年

「国内希少野生動植物種」指定し、保護増殖事業計画を策定 → 環境省が保護増殖事業に着手
(推定個体数 : 約 600 羽)



現在

約 3,000 羽に増加

鳥島における保護増殖事業は一定の成果

平成20年

鳥島は活火山であり、噴火による繁殖地の消滅が懸念されるため、小笠原諸島聳島で繁殖地の形成に向けて取組を開始。

新たな繁殖地の候補地 : 小笠原諸島 聳島

